参考資料：岡山県縣上道郡古都村史、現代古都の郷、ふるさと古都
岡山史蹟めぐり（岡山市立西大寺公民館古都分館）、岡山市の地名

古都村内には南方の内山城、宍甘の**宍甘城**、藤井の藤井城の 3 つがある。何れも室町時代に作られた山城である。

宍甘城（宍甘）

宍甘の山上にある宍甘城はこの地の豪族、宍甘氏の築いた城である。
宍甘氏は室町時代の豪族であった。松田に属したが後宇喜多氏の家臣となった。
この城は最も良い地点に築かれ、備前平野を一望のもとに見渡すことが出来、防禦戦（防御戦）に或は攻撃戦に、何れの場合にも具合のよい城である。そのため松田、浦上の争、三村、宇喜多の争の際にはこの城が用いられた。

【参考資料：『西大寺の城跡』　西大寺愛郷会　昭和４９年刊行】

標高 64m9 の山王山の南部に、4-5 世紀に造られた前方後円の古墳とその周辺に六箇の古墳群がある。その南寄り、現在新幹線が貫通しているトンネルの上方（標高 56m9）に、この城があった。

大体、古墳は豪族が自分の全領域を最もよく見渡せる場所に、領民を総動員して造るから、ここも備前平野を一望できる場所である。戦国の世に重要な拠点であったことも当然である。

明治 43 年岡山県下で陸軍大演習が挙行された時、明治天皇が演習統監の地である御野立所をここに設けられた所でもある。

今は、城跡らしいものは全然ないが、この城は室町時代の文亀 3 年（1503）頃には、豪族宍甘氏が既に築城していたらしいから、古都地区三城の中では、最も古いと思える。